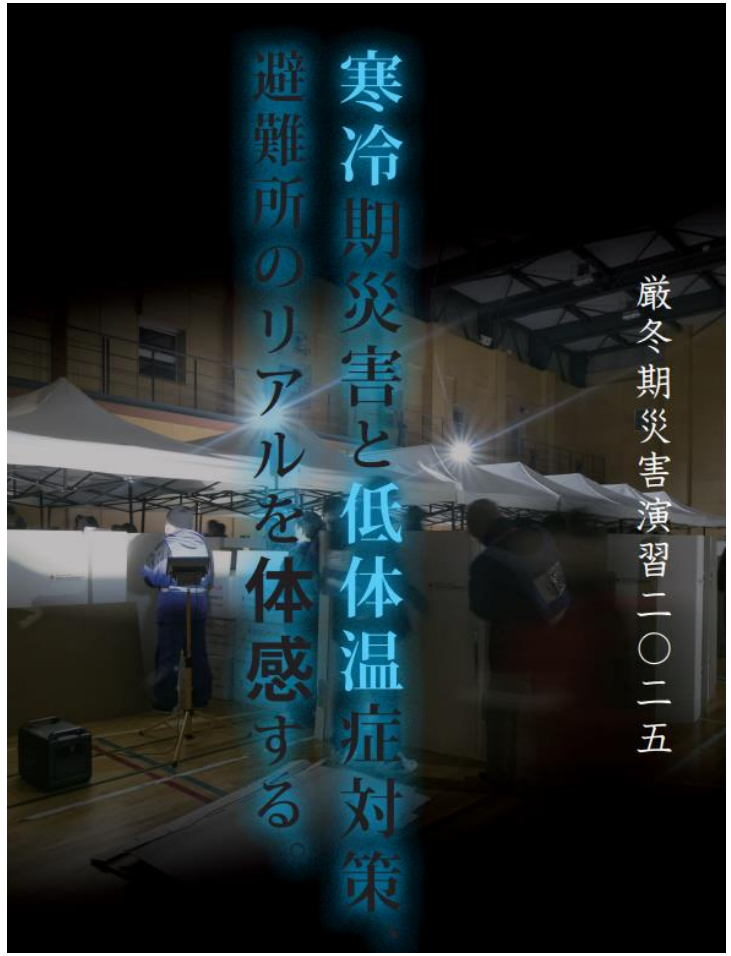
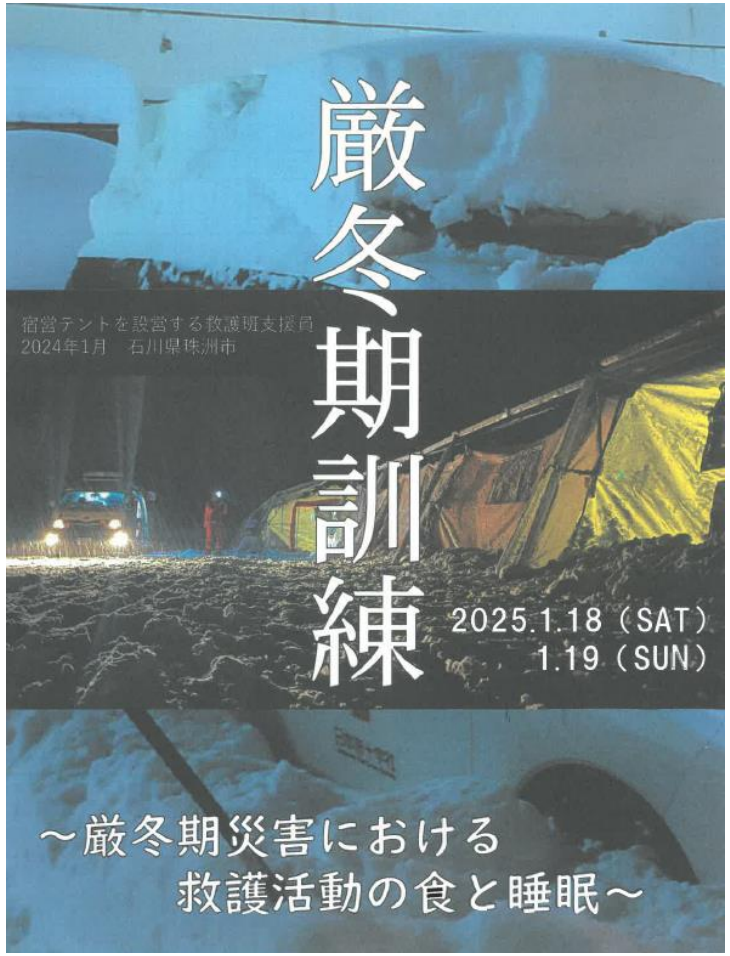
厳冬期における救護活動を想定した訓練　報告

「A」



「B」



A　厳冬期避難所展開・宿泊演習二〇二五

1　日　程：令和７年１月１８日～１９日
2　会　場：日本赤十字社北海道看護大学
（北海道北見市）
3　参　加：災害対策本部要員２名

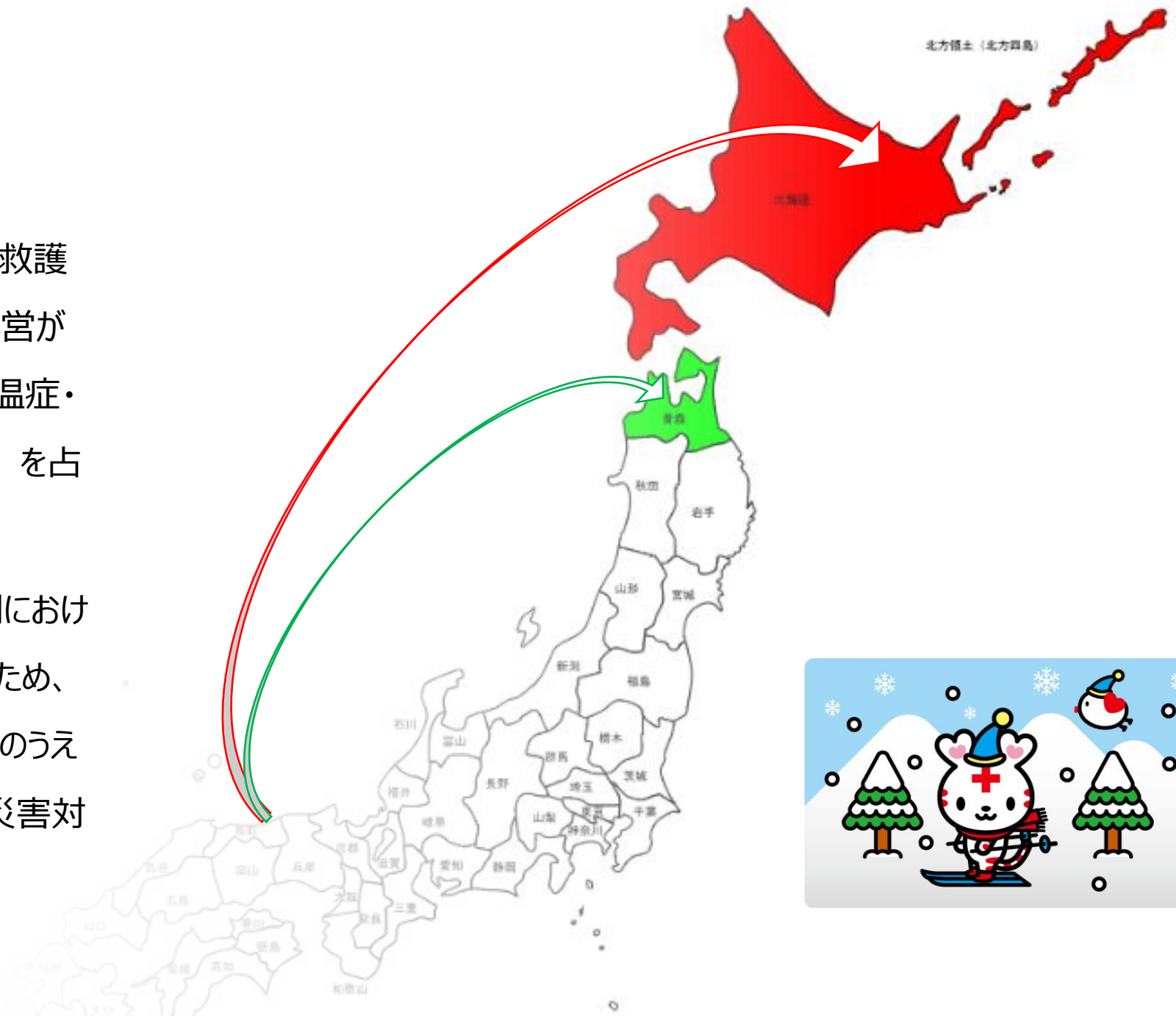
B　2025厳冬期宿泊訓練及び食事確保演習

1　日　程：令和７年１月１８日～１９日
2　会　場：日本赤十字社青森県支部
（青森県青森市）
3　参　加：防災ボランティアリーダー１名
災害対策本部要員１名

訓練目的

令和6年能登半島地震において日赤救護員には厳冬地域での自給自足による幕営が求められ、被災者の死因としても「低体温症・凍死」が３０名以上（全体の１割強）を占めることとなった。

本件を鑑みて、当支部としても厳冬期における救護活動を想定した訓練を企画するため、既に実施されている厳冬期訓練に参加のうえ当支部訓練企画及び厳冬期における災害対応の知見を深めることを目的とする。



【北海道訓練】
看護大学の体育館で避難所を展開

【左】避難所用の簡易トイレを複数種類展開する様子
【右】避難所運営のための注意書きを作成する様子

【北海道訓練】
看護大学の体育館で避難所を展開

【左】参加者140名で体育館の避難所に段ボールベッドと簡易テントによる居住スペースを確保
【右】感染症やプライバシー、冷気等に配慮した作りとした

【北海道訓練】
車内体験と机上演習

【左】零下20°C近くの冷え込みの中、車内環境を体験する様子
【右】訓練の終わりに演習の内容について、グループ討議を実施する様子

【青森訓練】
日本赤十字社青森県支部の見学

【左】５階建ての自社ビルに設けられた救護展示スペースの様子
【右】日赤青森県支部や三上剛太郎についての詳細が説明された展示スペースの様子

【青森訓練】
食事の確保と講義

【左】屋外で様々な熱源（IHｺﾝﾛ、ｶｽﾞｺﾝﾛ、釜、ﾛｹｯﾄｽﾄｰﾌﾞ等）を使用して食事を確保する様子
【右】発災が予測されている日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等にかかる講義の様子

【青森訓練】
宿泊場所の確保と演習

【左】公用車（レジアスエース）に断熱スペースを確保する様子
【中】救護テントの隙間風を防ぐため、雪を使用して盛雪壁を作る様子
【右】寝袋にデュポン社製のタイベックを使用して就寝する様子